

## 令和元年度第3回 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会 議事要録

- 日時 : 令和2年2月6日(木) 午後7時～午後8時18分
- 場所 : 市役所西棟8階 811会議室
- 出席者 : 田原順雄、天野英介、石井いほり、宮原隆雄、鎌田智幸、田中恭子、武田美智代、浅野彰、富田尚美、小島一隆、篠宮妙子、三宅珠美、荻原美代子、守矢利雄、森安東光(佐藤博之、小尾雅昭、日高津多子の各委員は欠席)  
(敬称略) 15名
- 事務局 : 地域支援課長、生活福祉課長、高齢者支援課長、高齢者支援課相談支援担当課長、障害者福祉課長、地域支援課6名、高齢者支援課2名
- 傍聴者 : 5名

### □議事録

#### 1 開会

【事務局】 これより令和元年度第3回武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会を開会します。

#### 2 配付資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

【事務局】 本日は、佐藤委員、小尾委員、日高委員が欠席で、出席委員は15名です。続きまして、これから議事となります。

#### 3 議事

【会長】 皆さん、こんばんは。コロナウイルス騒ぎで、インフルエンザが吹っ飛んだんじゃないかと言われているぐらいの状況ですが、我々としては、本会議を通じて、明るくて活力のある健康長寿社会を実現させるために、どうやればこの医療・介護の連携がうまくいくかを思い、地域住民の方々のために何ができるかということを考えていきたいと思っています。本日の会は、今年度の総括に当たる回ですので、早速議事に入ります。

##### (1) 令和元年度 在宅医療・介護連携推進事業の報告

##### (2) 令和2年度 在宅医療・介護連携推進事業について

事務局及び各部会長の委員より令和元年度の事業報告と次年度の予定について報告した。

【会長】 全体の報告が終わりました。今日はまとめの会を兼ねておりますので、皆さんに、ご意見、ご質問を簡単にお話しいただきたいと思います。

【副会長】 現場で支援をしていると、入退院の期間が短くなっている。入院をした途端、病院と連携をして、入退院の情報連携シートを送る。さらに、ひとり暮らしの方には、ついていって、こちらから情報をお渡しし、連携して、退院までのことを支援していくのですが、そういった方が非常に増えています。経済的に厳しい方だと、介護保険のサービ

スもなかなか使えない。そういった方々を今後どうやって地域で支えていくのかということは今、切に感じております。

【委員】 部会に参加しています。今年は退院支援も含めた退院時の病院と在宅との連携も含めて活発に議論され、ACPや身寄りがない人をどうするのかという新たな課題が出ているという話がありました。裏を返せば、武蔵野市内においては、病院と在宅介護の現場は結構つながってきていて、そこで課題が大体出尽くした感があるのかなというのを通して参加して思いました。

始まった当初は、退院の準備ができないまま家に帰してしまい、現場でやいのやいのと言われたのですが、今はその次のステップとして、身寄りのない人にどう意思を確認していくのかというところが退院支援の支障になっているということが浮き彫りになり、来年度の課題につながっていると思いました。そういう意味で言うと、ACPも全体で考えていく。ある部会だけで考えるのではなくて、地域包括ケアを考える上では、市全体で応えていく必要があるのかなと思いました。

【会長】 委員は、地域包括ケア病床を開いてから1年経ちますけれども、在宅医療・介護に関して、気がついたことは何かありますか。

【委員】 現場のほうも、病院に情報をとりに行こうという姿勢だとか、これはうちの病院の中だけの話なのかかもしれないが、職員全体が、この人を何としてでも家に帰って困らないように、2カ月の間に準備して帰そうというのが、ある意味モチベーションになっている。それが病院でもそうだし、在宅介護側にも強く出てきているのかなというところ です。

【委員】 報告でも申し上げたのですが、例えば白内障の手術は、本当に簡単で、手術は日帰りですが、手術の前から3カ月間目薬をさす等、おひとり暮らしでどうしてもできない方、そして、その間に1週間に一度通院していただきたいということのために包括病棟とか老健が使いにくいとか、本当に簡単な手術、簡単な通院とかでも非常に困られている方が多いので、そういった個々のケースの受け皿ということを考えていきたいと思っています。

【委員】 摂食嚥下の評価や、その後の摂食支援に関しては、かなり使い勝手の良い組織になってきているかなと思います。今はまだ1例ですけれども、潜在的な問題を持っている方はたくさんいると思うので、今後も使っていただきたいと思っています。

【委員】 主に認知症で関わりました。認知症については、介護の方が現場で直接かわっているケースが多いと思うのですが、現場のいろいろなスキルを持っていると思うので、共有できればいい。実際は現場だけではなくて、もっといろいろな方々とつながることによって、いろいろな解決策とか、いろいろなものがまだまだ出てくるのではないかな。現場力というんですかね、そういうものを来年は考えていきたい。入退院時支援の身寄りのない方の入院時の対応は、我々の病院で非常に大きな問題になっております。これはぜひとも頑張って取り組んでいただきたいと感じています。

【委員】 訪問看護・訪問リハビリ事業者連絡会では、今回ACPに関わらせていただいたのですが、やはり今後も継続して行っていきたいですし、ブラッシュアップするような機会も欲しいという意見が出ておりましたので、みんなで協力してやっていきたいと思っています。事業者連絡会として、毎年9月に防災チェックシートで、利用者の家の中を一緒に見るような機会をつくっていますが、今回配布のパンフレットにある緊急医療情報シートを1年の1回のチェックの中に入れてみたところ、いろんな事業所も気づいて声をかけたり、新しく立ち上がってくる事業者に伝える機会がなかったことに気がつきました。これからやることもですが、今まであるものをきちんと広めていけたらと思っています。緊急医療情報シートは、ACPにつながることもありますし、みんなで関わっていききたいと思っています。

【委員】 私も、身寄りのない方の入院時の対応について、どこまで支援して良いか悩んでいるところがあって、来年度に続けていただければと思います。その支援に関するガイドラインも、前からあるとは思いますが、それ自体を知らない方も多いと思います。ACPについて研修部会で継続されるということなので、それに結びつけて、研修で身寄りのない方の入院時の対応についてという内容も含めていただくと、普及啓発にもなるのではないかと思います。

【委員】 この3月までに3つの大きなデイサービスが閉鎖をすることになりました。在宅に重度の方がたくさん住まわれるということで、デイサービスも重度化をしているので、人を入れないとどうしても見守りができないのです。そうすると、経営は赤字になってしまって、前回の報酬改定でかなり減収になっている事業所がたくさんあるというのが実情です。残った事業所の私たちができる努力はしていきたいというところで連絡会を持っています。

現場レベルでの話ですけれども、地域ケア包括病棟から退院されてくる方が本当に短い入院の間に病状も改善して、機能もそのままの状態、もう少し良くなって帰ってくるような状況がありまして、本当にありがたいなと思っています。

【委員】 身寄りのない方の入院時の対応は、福祉公社の在宅介護・地域包括支援センター等にも相談が来まして、対応がなかなか難しいこともあるようですので、ガイドライン等があると助かるというのが感想としてあります。こちらのような医療関係者の方等とのネットワークがあると非常に助かるという部分が2点ほどあります。1つは、来年度、武蔵野市が成年後見制度の利用促進基本計画をつくり、市とともに福祉公社も中核機関になり、ネットワーク連絡協議会をつくる予定になっています。皆様にも協力いただくことがあると思いますので、今後よろしくお願いします。また、来年度、福祉公社の人材育成センターで喀痰吸引研修を行う予定です。田中委員にもご協力いただいて、実施する予定です。こちら、医療関係者の方等にもご協力いただくとと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

【委員】 協議会の各部会で検討された内容は、市内6カ所ある在宅介護・地域包括支

援センターで月1回行われている地区別のケアマネジャーが集まるケース検討会の場において、居宅介護支援事業所協議会の担当の方から報告がおりてきていて、各協議会でどんなことが話し合われているかというのは、ある程度の情報共有はできている状況です。ただ、先ほど会長がおっしゃっていたように、研修に参加した人とそうでない人とは、理解度はもちろんですが、関心の持ち方も差が生じてきてしまっている印象を感じています。全体で研修をされるということ以外にも、もう少し小さい単位で、どのタイミングでケアマネジャーがどう介入したらいいのかなということも研修をしていけるといいのかなと皆様の報告を伺いながら考えてみたりしました。あとは、身寄りのない方に関しては、入退院時にも関係するのですが、成年後見という場面での支援も必要になるので、いろいろなことを連携していかなければいけないと改めて感じ、みんなで情報共有していくことが必要だと思いました。

【委員】 身寄りのない方の入院時の意思決定支援というのは、精神疾患をお持ちの方、知的障害をお持ちの方についても、どのように支援をしていけば良いかというところが日々難しいと感じています。どのように対応していくかというところに障害者も含めてぜひ検討していただければと思います。

【委員】 私は2点あり、まず1つは、身寄りのない方が病院に入院してからの退院支援、そして、その後の支援です。年末から何件かありました。在宅介護・地域包括支援センターと私たち基幹型包括、行政とともにやれる事ということで、入院した病院から、高齢者の住民票のある在宅介護・地域包括支援センターに連絡をもらい、そこから基幹型包括に連絡をもらい、三者が病院にまず集まって、役割分担をします。後期高齢者の医療保険証を持っていない方もいらっしゃるので再発行等の事務的手続きや、身寄りをどう探すか。医療場面での入院期間が短くなると、次に誰がどのようにしてその人の伴走に当たるかが大切になってきます。このような流れで実施していくことを在宅介護・地域包括支援センターとは話をしています。前回の入退院時支援部会の際に、提案を申し上げました。仕組みをつくるということが来年度に向かっての第1点、2点目は次期の計画の中でもやはり認知症ということがとても大きく出されてくると思います。さまざまな委員から、独り暮らしの認知症、認知症ケアについて発言がありました。私は認知症初期集中支援事業について関わっており、今年度の5件目を動かしています。いろいろな専門職種の人たちは、自分たちの見立ては正しいと思っているけれども、不安を持っています。複数の専門職訪問やチーム会議をやることによって、方針が一つその場で決まってくる。そして、ケアプランに落とししていくというやり方に、チーム会議に出席した医師会の先生方も理解してくださり、ケアマネジャー、在宅介護・地域包括支援センター等にも経験が広がっていく感じがあり、認知症初期集中は進めていきたいと思っています。そして、独り暮らしの方の認知症の支援は、どのようなメニューをそろえて、どのような体制でやっていったら、この地域で長く生活させてあげることができるのか、大きい課題だと思っています。

【委員】 市民セミナーを来週予定しています。どういうテーマでセミナーを開くのかというのは、毎回大きな課題になっていて、その都度、先生方にもいろいろ相談しながら、進めてきました。今回の「在宅への復帰を支援する地域包括ケア病床」は、一般市民には

まだあまり浸透していない段階かと思っておりますので、今回のセミナーで取り上げて、少しでも一般の方々に情報発信することができる場をつくることは、とても意義が大きいことと感じています。

**【委員】** 大変興味深いというか、示唆深いお話だったと思っています。

ACPについては、昨年2月の市民セミナーで取り上げ、大体どこの市でも、まだACPという言葉の理解をどうするのかといった研修会だとか講演会の段階だと思っていますが、先ほどからお話を聞いていると、そのことがそれぞれの部会の基調に流れていることが感じられて、大変すばらしい。そこまでも浸透してきている在宅医療・介護連携の協議をしているところというのはそんなにはないのではないのかなということで、自分達としてうれしく思っています。例えば、身寄りのない方の入退院支援を来年度の大きなテーマとして取り組んでいただけることも、大変ありがたいことだと思っていますが、とても示唆深かったのは、私たちからすると、どうしても高齢者の方が対象になりがちなのですけれども、先ほど委員からあった、精神や知的障害のある方々についても考えていかなければいけないというのも、大変大きな示唆だったと思っています。武蔵野市は、おひとり暮らしの高齢者の方が多いですから、身寄りのない方の入退院支援は大変大きな課題だろうと思っています。高齢者の4人に1人以上の方がおひとり暮らしでいるということはどう支えていくのが大きな課題だろうと思っています。来年度は、高齢と障害の計画を策定する年になりますので、その中でお1人お1人の意思決定を支援しながら、どうやって生活を続けていかれるのかということを考えていけるような、そのことを基調にした計画にできればいいと思っています。8事業の取り組みのうち、市民セミナー、普及・啓発のところを見てみますと、去年、ACPを取り上げましたけれども、そのことをずっと訴え続けてきたり、皆さんと一緒に考えてきていたんだなということを感じました。例えば、29年度の「もしあなたが望むなら家で最期まで暮らせます」は、その前の年のケアリンピックの最優秀賞の事例でしたので、武蔵野市で活動されている医療・介護のさまざまな職種の方々が常にそのことを考えながら仕事をしていただいているということを保険者としても大変ありがたく思っていますし、そのことをこれからも継続していただきたいと思っています。

**【会長】** 全体を通じて、まとめてくださったので、私のほうから申し上げることはないのですが、在宅医療・介護というのは、医療・介護の分野で言うと、生活支援型の医療という言葉がありますが、それに即したやり方を考えていくことが必要になるかと思いません。地域包括ケアシステムを構築するために、この事業を行っているわけですが、最近、厚労省がやった地域共生社会推進検討会のレジュメみたいなものを少し眺めていたら、地域包括ケアのことを「高齢者から始まった地域包括ケア」と言っているのですね。つまり、地域包括ケアはもともと高齢者のことだということで在宅医療・介護連携推進を進めてきたわけですけれども、これからは身障者の問題だとか、今は全世代型の社会保障が言われていますので、幼少時からのことも考えていく必要があると思います。今後の課題はまだこれからも多々出てくると思いますが、来年度もいろいろと検討を重ねながら発展をさせていきたいと思っておりますし、そこには創意工夫が必要で、企画実行していくことが必要だと思いますので、皆さん方のご協力のほどよろしくお願いいたします。

#### 4 その他

【事務局】 本日の議事録は、委員の皆様の確認後、送付します。令和2年度第1回協議会は、令和2年の6月から7月を予定しています。

#### 5 閉会

【事務局】 以上で、令和元年度第3回在宅医療・介護連携推進協議会を閉会します。  
午後8時1分 閉会